

◎本校の環境問題に対する取り組み

本校の環境問題に対する取り組みは、大きく(A)環境教育・研究と(B)環境マネジメントの二つの柱から成り立っている。(A)では、まず低学年次における環境教育を通して環境問題に対する学生の関心を高めさせる。それを4、5年次に行われる卒業研究等の環境研究へ効果的につなげる体系となっている。また(B)では、環境方針を策定して、その方針に基づく環境目的・環境目標を達成するための体制を構築し、平成18年度より本格的に運用している。

(A-1) 環境関連の教育・研究

平成18年度の環境関連科目は17科目である。このうち第2学年において実施している「連携授業」(図1)は、本校独自の取り組みとして外部より高い評価を得ている。この授業は、地理、国語Ⅱ、倫理、線形代数、物理Ⅰ、総合英語Ⅱなど複数の科目に渡って実施され、多様な視点から環境問題について学生が自ら考える力を養うことを意図している。平成17年度から毎年実施し、受講した学生の多くから好評を得ている。

また、森林資源や水産資源に恵まれた地元岩手の風土・環境を生かして、バイオマス資源の高度利用等に関する研究が数多く行われているのが本校の特徴の一つである。環境研究に取り組んでいる教員は平成18年度で19名おり、論文発表は12件であった。そして、自治体や企業等との共同研究は3件、受託研究は2件行われた。

(A-2) 「環境研究教育プロジェクト」

本校では従来、環境に関する教育や研究が盛んに行われてきた。そこで、これら環境に関わる多様な研究および環境教育を全学的に推進するために、平成18年度「環境研究教育プロジェクト」を立ち上げた。このプロジェクトにおける新たな試みとして「ランチタイム・エコセミナー」をスタートさせた。このセミナーでは、環境をテーマとして各学科の教員および職員が講師となり、昼休みの時間帯を利用して、教職員や学生が昼食をとりながら気軽に聴講できる形式を取っている。この機会を利用して、他学科の教員と情報交換できると共に、学生を含め学校全体で環境問題に関する情報を共有化することができる。本校独自の取り組みとして平成19年度以降さらに活性化させていく予定である。

(B-1) 省エネルギーに向けた取り組み

光熱水・燃料等(電気、水道、LPガス、A重油等)に係る使用量を毎月、前年度実績と対比させたうえでグラフ化し、グループウェアを通じて、全教職員が閲覧できる体制をとっている。各種会議等の資料の配付においては、電子メールによる電子ファイル添付や校内WEB上での閲覧の手段をとることにより、極力紙資源を使わないよう努力を払っている。また、学生を対象として行われる授業アンケートはWEB入力で行われ、ペーパー・レスとなっている。

(B-2) 学生の自主的な取組

学寮では、寮生会が主体的に寮内における節電・節水の呼びかけ運動、学校周辺地域の清掃奉仕活動を行っている。また、リサイクル活動として、寮内の新聞紙・雑誌を収集し自ら処理工場へ搬送している。

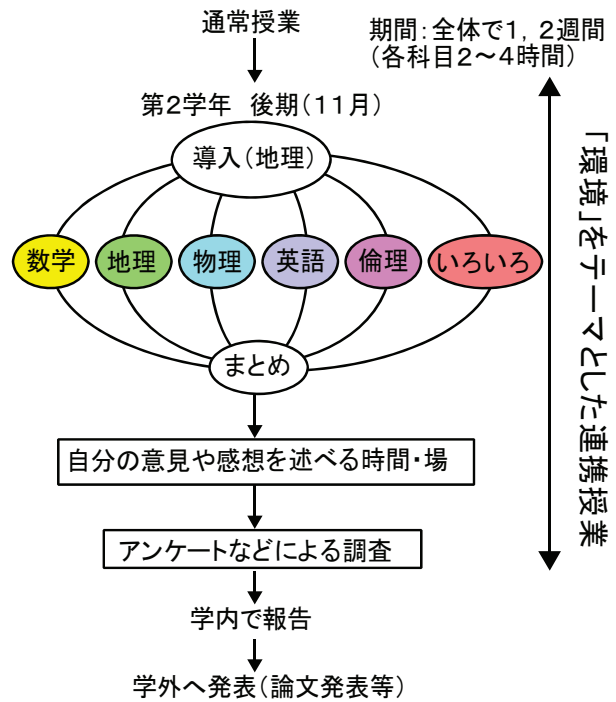


図1 第2学年での連携授業の流れ